

新杖木町堺所葺屋所も座芝居経波町方砂町元濱町辺武家方丈
 たりも園業研埴笑の舎跡小いり飛火して本表所辺焼亡一夜九
 半時終る○正月雨降る日烈風中して火多なるあり○二月永代橋
 新丈橋大川橋交負人止る菱垣虫積仲間引受不成り浪沙止む
 ○二月五日登九時半辺火消屋後級より密書所の系近焼亡武家方多焼る
 ○二月十日小日香里妙隆寺祖師宗帳○四月より仍徳徳願寺跡院如来
 関帳○三月廿四日約辺田宗寺小て八百石お七が百廿七田忌法る為 細雨降
 清草集夥一奇奇收 名毎年林金積七千八百石約辺
 の聖修修管する所といふ 吉祥中洞新小葺以男を
 教龜岳といふ 教を長く以
 ○四月より七月迄江の島本宮若屋兼才天関帳あり江戸より
 系諸縣一江戸よりも亦兼才天関帳有り○五月六日儒師泉豊洲卒
 年二十才称芥太郎名吉達 浅草光昭も小葺以
 ○六月六日より田向院より常州真盛郡新玉助村

関帳○六月廿一日官医桂川南周卒 五十六才名国瑞号月能老人
 二本枝上杉も小葺以
 兼才在久持村も院縁の和木様より花多く咲り江戸も見物人多し
 ○七月橋場神明宮の内にて武州沖嶽山家麻○七月十九日より本所
 本佛も亦甲州石和遠妙も祖師関帳○七月深川宜雲も小葺以
 蝶の草塚を築碑を立る 市野光彦文を撰一英一珪とれを建る
 くれ一紫寓居の所一あり ○八月廿二日夜
 亥の刻より廿四日迄大風雨家屋を損る事夥く火の足の子鐘を吹落り
 伊豆房徳漁人多く溺死○八月卜者成田朝辰鈴々森八幡宮境内
 小裡塚を築く○今年瑞國豊化之○九月朔日より二十日の間半辺岩
 戸所南慈院兼才天関帳○浅草報恩寺田所向より今の所一移る
 此所本所方の地所度る○九月五日詩人谷林麿谷卒 八十五才名幸脩祿十
 次即画人文魁の父之
 浅草深堂 ○九月五日儒師篠本竹堂卒 名廉称名二所
 ち小葺以 四谷甫吉所棠林も小葺以

○彌布日記三卷字奉成 右田中畝先生公用年々 ○十月三日大雪十二月迄解氷

文化七年庚午

正月廿日より浅草大仏より小幡渡家系振幸より祖師開帳 ○同廿七日物有家

小野蘭山卒 八十三年三月廿七日卒 小幡内 ○二月廿日より川口善光寺如來開帳

○二月廿五日より平河天満宮開帳 ○三月七日より田向院より越後國へ遷す

大目如來開帳 ○同十月より浅草玉泉寺より藤倉松葉谷長持より祖師開帳

○同十五日石原徳水条才天開帳 ○同十二月十九日追遠法華唯念寺より同廿一日廿七日迄
同池田泉寺より四月朔日より七日迄法華唯念寺より

中野高田山如來開帳 ○三月廿日以後寺杉並一津瑞瑞精竹本位太夫死 葬地本
其後

○四月朔日より浅草折稻新町林保開帳 ○同八月より深川澤公より新

曾妙嚴寺祖師親述如來開帳曼荼羅を拜せむ ○五月十一日狂歌師秋野

屋裏位卒 七年七月金吹所より位所大座の表位とより申上り ○六月十五日より田向院より

嵯峨清凉寺轉述如來開帳今年八例より条詣多し ○六月廿二日廿四日白

金覺林より清心公二百年忌信養開帳 ○八月朔日より護國寺より信

明座光寺村元長老如來開帳 別當 九月十九日加菰遠塵母卒

燕のつらあしく丹書を巻く修文中にて佛像を画する人の服形坂給母も小寛政八年成就し

○十一月十六日東本願寺洲堂再建上棟の式あり 文化三年災後五年間おいて成終せり

供物飾物木同を登るに斗りあり ○此冬マゴ口の魚漢ある事夥し総豆ねの三初より

一日ふ一万本を獲るといふ ○十一月十七日儒師諸葛琴臺卒 名蓋号鬚髮
下谷養玉院小幡内

同 八年辛未 二月間

舊冬よりあけはれ正月十日大雪十七日大雪 ○正月廿四日萱田中時より

浅草茅町二丁目裏より出火表通りへ出火裏河原折橋万八樓迄焼九三

町ふ一町程あり早美度よりなる ○二月十日梨風申刻市谷谷町念佛板

よりお坐四谷赤坂麻布西麩飯倉赤羽坊上寺支院三也焼亡以次三也より

て死亡の若二百餘人と云々○二月十三日村田春海卒六十六才錦織史一不娶後為松平四郎と云國學不長一和宮と

りて羣書一覽云寛平中の新撰字鏡と購ゆ一より○二月廿八日より牛込若王子権現世弘方の書海が賜と云々

開帳○同二月十日八坂津社内親世寺開帳○同十八日より護国寺山内にて

秩父北和親世寺熱開帳開帳中○同晦日より牛島長倉寺新天開帳

○三月十一日より池の妙善寺に於て滋賀若本実相寺祖師開帳

○三月十六日永代寺に於て信州戸隠明神九郎権現開帳別所 顯光寺

○四月初旬より風邪流行人のあり小袖の権現髪と云々 蜀山人

○四月朔日より田向院奉為孫院如來并後倉天満宮開帳○同日八坂湯町

某師内にて新座郡次上親世寺開帳○四月十日永代寺境内小堂に於て後夜經四月十日永代寺境内小堂に於て後夜經

を念ふ○深川仲町靈巖葬念ふといふ人天啓念ふ成りといふ物念ふを念ふを念ふ

造りてを念ふ○四月廿六日粒方師千種庵恒海卒五十一才孫山中要助号霜翁と

○五月十日より田向院に於て並井八幡宮開帳有縁ありて ○同月廿二日より

浅草新座正行寺に於て常為大塔村正おふちより大蛇崎成親おふち上人像開帳

○七月十六日より揚場神明宮内天満宮開帳○七月四日画人晁有輝卒松町人信子

○七月廿一日儒師病谷空名慎林在在并卒白泉寺小葬 ○八月上旬毎夜雪降りの方常星お葬儀

出下旬ハ西ふ見え ○九月二日永代寺病新武藏屋といふ縁者より火火烈風お葬儀

を例五丁程焼亡○十月三日儒師病見星卒名九林三年若事つ中平三

○十月廿八日東本寺に於て法堂考徳成徳延佛徳養完傍考樂お葬儀と云人諸人お葬儀

年岡山五百五十年の遠忌○十一月十六日雪六時迄蘭竹馬町三丁目より出で

風之中通り一山河岸一焼校考枝木町河岸迄出夜九時迄九十二町程焼亡

○十二月二日書家荒木適斎卒名勉之孫九郎 ○十二月十日夜九時迄浅草柳稻九山若事の中葬

荷裏通りより出火為水風強く妙座河原川町より三筋町を越えより為福
る唯念寺焼る○同刻赤川橋向より出火競洲の辺に於て焼る

○江戸身舞妓年代記刊行十五卷 立川馬馬作三津芝居の基立りの記録より
今年より十二年迄追々小冊行

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺にて岡田念持佛阿鉢陀如来開帳○三月二日より法谷
長谷寺より京清水寺親世寺開帳 京清水寺一山開帳
高人依やれを列 ○三月廿日より洲崎寺

秋天安帳○三月より池の好音寺より佐渡の谷妙照寺祖師開帳○三月十四日

より押上春慶寺芳賢井開帳○高真木下川清光寺裏の通極樹を多

く載る○四月廿六日二島自寛卒 卒八十名景雄称吉を勝三高申より小住忠家和が上代
又徳書あり後学新垣善照が小輩

○五月十八日より芝巻宿山より下総巻寺より 開帳○月十八日儒師山本

北山卒 六十一才名信有称在六
小石川系町中合の小輩 ○五月廿五日觀相名人石竜子法服卒○七月大水

あゝ切あり○七月八日法如英慶和上迂化 法谷村宝泉寺小輩
世嘉 近世の祖徳 ○八月廿七日

銭化若市場通災終 清草親云
小輩 ○八月系本野馬中極本寺より越後修典

新宝物を拜せむ○九月系本野馬井の極本屋より業のむを以人物を數

何れとなく色々の形を造りて諸人ふるまふ江戸中の多様目毎小群集

て是物より年の毎小盛不あり九五十餘り不不文化十二年迄あり

まより後造物の止む 此時業の昔月業内記修業紙の
新ありと不修せり

抱上人極本屋何某の屋中の能り菊を識りて
是あり一人のより修や造り業

○九月二日下総國相馬郡代宿百姓忠義殿より八丈より男子と生母子

恙あり○十一月四日八丈町大地震 あゝ土瓦毀色用水桶の水を不修せり
赤川系本川辺にて強家樹傾怪人あり

○十月十七日書家田中為善卒 五歳より
小輩 ○十一月廿二日夜六時色龍泉寺村より

出火南烈火風より古系新町へ火移り又々一廓盡く焼亡りまより為水の

風小なり田町一飛山なる乃百親寄道一口丸町山の宿の辺迄焚焼一川
越く本所番場所の辺より焼る 吉東丁板宅田町聖天町丸町山の宿三谷
津川小六を不あり翌年八月元祀へんつる

○此秋吉田町二丁目三丁目何々の西の裏より上水の橋を造りて池を
ら(五)新茶店を造りて往來の人乃休之所と云又保の始より腐り

を裁く例小茶店を造りて往來の人乃休之所と云又保の始より腐り

○十二月十九日書家箕田牛山卒 号福齋亦麻布宗嚴も牛山
長男也卒歎吉名藩号棟山と云 ○十二月歳

寒く國川氷あり○十二月廿九日夜五時の前桶町より出火西小別火風雨傳
る町より系橋竹川孝金古町迄焼亡○此以カラシ糖といふ瘰癧のこぼり

賣街をゆるく 蛇の目の故有る物高と云ひ菅笠と云り網袋を脊負ふ声も
カラシト云と噂せり漢書五刑不舖を由出せしと云程あり

文化十年癸酉 十一月間

二月二日夜九時色三河町武丁目裏通より出火して武家方四軒程三河

町二丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町新焼夜町石

移る○同十五日夜亥半刻下谷所成道志田豊前屋の南隅を越り出

火焚風おして石川彦所を越りて越一丸一茶店の裏より出て右ふひろ

り向例より仲町高例移りて焼失池の端裏通より加倉屋を越り西に三枚橋

向料理屋松坂屋の例より呉服店松坂屋の例より上野町山下迄焼る

○三月より清室より念佛堂より常州麻布志神宮不斷經所廣徳寺赤童子

閑帳○三月八日より池の妙音より二の江妙音より祖師閑帳○三月より隅田

川本母より本寺茶梅若丸像閑帳○三月菱垣上杉様仲間十組同座株式

定る この時の人数
千九百九十五也 ○三月廿日より火之保西向天満宮閑帳○四月朔日より今

戸八幡宮閑帳○五月九日より清室先帝先帝祖師閑帳○夏芝屋宿山

控現因性 ○五月愛宕山別當田福寺にて長鬚會あり秋田彦の侍醫大関
大中之いふ和之の懸きき老人を集めて書画の命を僅け和あり

七十よきとせの命を嘆きてつとめあはれ月をあらん

○五月廿日より五日の百九代目森田勘弥壽程言身形 ○五月廿日程法師の柄

岡村平 七十九才平浪氏名平富号月成 在名森三深深川津名中一志流三奉 ○夏清き老女糸乞の池(水車を仕裁)方々

用ずしと人形を踊る色鳴物を鳴らす見せ物あり ○六月二日より回向院より

常則筑波山林薫蚕影山権現因性 ○六月初旬より蕎麦を食へ死るといふ

俗説ゆれ蕎麦を食ふ售ひあり ○八月八日書家大橋重雅卒 後其為福中 存心院小暮以

○十月廿八日法橋五松雀林翁卒 翁を此羽小泉沢の人寛政中江戸より来りてより京師に せりて坊城菅原ねまは書家の草子法を授り常米の 形も中徳寺古小暮以文化七年菅家書則漢義一卷を著して梓小形小

○十一月九日明六半の末より西方(大)二尺餘りの光地飛ぶ 戦州生美村の辺(落中)野舎の如く大なる野舎の如き歎ふ

とく肉翼の とく肉翼の ○十一月廿八日夜九時の品川宿橋向火三所の除焼亡せり

○同月廿九日夜高砂町西側より火高風烈く電河岸(出)又小風小より

和泉町東側より又坂町塚町葺屋町為座の芝居雜伎町より町家物町

稲荷堀酒井彦中(小)至り翌朝六時の迄焼火す ○十二月二日善六時

より花川戸町去年焼移りる家々古妻橋跡迄焼亡此後五十餘日雨雪

く日く小火也 ○十二月四日官儒尾後二洲卒 六十九才名孝榮林象外 大塚正麻島小暮以

○十二月六日書家松會平陵卒 七才三才名芳文林三四郎 清室村安古小暮以 ○吉原境町(年)次(切)小

ありて何れも今年地(燭)家の居宅(困)ひこみより町名を唱ふ事あり

文化十一年甲戌

正月十日夕七時迄より俄小風吹あり和之家屋を損み此日初卯を龜戸
妙義社系清輝をきけるが此暴風小家根舟猪牙舟殺艘没して人多く

死龜沢町にて侍入空中火上三つ

○正月十四日善時八代洲河巻より出火

○正月廿五日車工松田龜五号法隆院御地土持店

卒号法隆院御地土持店

○二月保川砂村元八幡宮

より多前四五町の石種木の八重権を裁ふ無妻遊観多

○二月二日より十五日の石河崎弘法大師開帳三月朔日より永代より成田

不動寺開帳神綱職大権灯米俵造り物未野々ありは時より常納

○三月三日より日向

院より中總寺権村弟内より不動寺仁王大九尺開帳三月六日夜大角大

雷不三踏おろ○同八日より押上法恩寺より永奉國寺祖師大聖天皇御女今より

善法正開帳三月十日書家佐野東洲卒名開新垣正定寺本尊○三月十八日

の石河崎親世寺開帳同日より一の権現開帳外境内の神仏二十三年目数開帳○同廿日より所

善法八幡宮より後父子権現開帳四月朔日より滋谷金王八幡宮開帳

○四月朔日より谷心法院権現神田平永町小折所より大九尺計りある鏡

舟月の門浅及お終る形を用ひて○同日より浅草金蓮院子安親母舟水あり○自終不佛心の念とせおと

○同二日より中野宝仙寺不動寺開帳同八日より四谷新宿子安権現本比十一面

親世寺開帳同十九日より西新井弘法大師開帳○四月より七月中旬

及徳園大早懸都下門下松林と建て度と様ふ○六月十八日百瀬流筆道の師耕

元卒長権耕雲門あり今年七十八才亦坂法ある○七月朔日より日向院より河州

壺井八幡宮茶権現開帳七月系於上香羽村桂娘名代何某官許

せ好く勅化の為成家町を巡行す七月より徳奉上人小石川

傳通院より徳人小十念を授くる是後縁の系流筆集懸

○秋護國寺親世音開帳系流筆○十月廿日夜上野所本坊火十月書家

田中玉峰卒名お則○十月八日浅草寺奥山謎坊主といふ者

の盲坊主を小ありく名おお○十月廿九日

の盲坊主を小ありく名おお○十月廿九日

の盲坊主を小ありく名おお○十月廿九日

の盲坊主を小ありく名おお○十月廿九日

祖師開帳 ○四月朔日ハ獲國を以テ相剗松本親世を開帳 ○四月廿八日ハ淺草草束
唐法養を以テ池之邊を以テ祖師開帳 ○初夏より壬八月迄江戸疫癘流行人多ク

死次 ○五月三日朝草束所相長相益唐梁 長十二男 折 七年公曆年秋焼の翌年春後の二紀
折 東海左揚州郡下里川村松山神社の神本

○五月三日申刻在東京町より月火一廓焼亡 住宅田町西三所山の南所 ○五月十七日
画人鈴木芙蓉卒 六十一年名雅馬老蓮 後まの町大仙の墓 ○紫おとと始て後 おもては原とも藤原の種敷の

○六月十八日ハ日向院にて府中深大寺元大師開帳 ○閏八月二日四日
大風多人家を損 樹木を倒凡江戸は外出水 本年秋の滝橋例とて幸平深川の辺

○九月七日戲作若山東京傳終 若山氏名雅孫傳若 幸六十日向院小墓 ○他家奇人於持り 替若言一 編集

○九月梅振返り咲き ○九月以後小入といつともおく物子をえり太鼓を打者
あゆるといふ ○九月廿二日より幸徳所門外畠地小終て親世を交 泰 湯賜 勅進徳

不隨亦成美卒 信孫并信孫八郎卒也 幸後町蓮花寺小墓

文化十四年丁丑

正月十二日曉ハ時雨中新米物所南側より火出有是芝居焼亡忠代町大坂町

志在出所人形町通敷焼 ○正月月中旬師律雲庵卒 此書の筆頭年 梅屋町目録

小野野うたハ向中小最早死移の ○二月九日画人金子金渡卒 元圭 ○二月朔日本所法

思書祖師開帳 ○二月日ハ承徳を以テ八代為為朝明神開帳 ○月日ハ葛西花又村

替書大明神開帳 ○月三日ハ青山光古を以テ難波松江神院如來開帳 ○同十日より

十女有浅草寺親世を開帳 ○同日ハ浅草寺卒古を以テ相剗 古天拜祖師開

帳 ○月十日ハ浅草大仙寺を以テ強明海長を以テ祖師開帳 ○青山梅窓院恭平

親世を開帳 ○月廿五日ハ番像親世を開帳 ○四月朔日ハ芝神宮地内より

武正年表卷之七

武正年表卷之七

武正年表卷之七

武正年表卷之七

武正年表卷之七

武正年表卷之七

武正年表卷之七

武正年表卷之七

武正年表卷之七

武正年表卷之七

相為梅澤君妻控現閑情 ○同日より不忠沈赤才天内之て上洲村田医王君旭

茶師如東三兵衛 ○同日より同志齋茶師如東園徳 ○四月朔日松野野谷君平

佛千社ありと号して札を張る小徳平のより利光とて廿六の右樓の屋根より

子更以入り始りたり寛政のより始り天徳の以小徳とて保盛ありとて

堂社といふも情る多ありとて札を張る小徳とて廿六の右樓の屋根より

完来平 ○五月四日官儒古如精里平 五月より七月まで

江戸若松五六早 ○八月九日官儒岡田寒泉平 十月廿六日最上流

算術の師會田算方清の安政二年 同日

降福瑞浩十寸見沙汰死 十月廿二日晴夫未刻以江戸

市中雷鳴の如き響くとて光り物室中を飛ぶ

此年同記事

文化の始より浅き者七月十日の四方二千日未赤き蜀黍と雷除とて商

ふる始る ○浅き者奥山之社控現の后一人磨の社を建る社辺小山次秋の秋を載

景色を造り ○日暮村小富士山を築く ○日暮里青雲子の布袋村巨像を

修性院に移以 ○和合社の画像を作り始む

錢隨亭高半書系幸吉北國とて貴人も常小徳小徳とて大觀平次平

折橋小和合林のりて向られは法光といふ香山拾得ありといひて

小載せり又清人蔣士詮う忠雅集小画和合神の詩ありて寒山拾得の二人のりて

編輯燕居雜話小のりて

○叶福助といふ泥塑人を作りたりて

○江戸坂田那國友村鉄炮艇治國友藤去清能書といふ人薬学の醫師山

田大園小徳り蘭人推方来る所の鉄籠中一風を籠め火薬火繩を用ずて

風の勢を以て放つ鉄籠一別小形を以て加へて凝ら一風籠又赤籠と号し

て割る始む 蘭名ウインドルと云文政のより世に知らるは小徳製のもの